

12.11.18 両神山山行報告

M2 荒川 晶

①参加メンバー(敬称略・3人)

M2 荒川 加藤 中西

②行程

渋谷 03:00 集合→レンタカーで坂本へ移動

坂本バス停 06:15～両神山登山口 06:30～09:00 八丁峠 09:15～10:00 西岳 10:10～東岳
11:25～12:05 両神山頂 13:05～14:10 清滝小屋 14:20～日向大谷 16:00

この後路線バス2本を乗り継いで坂本へ移動、レンタカーを回収。

③概要

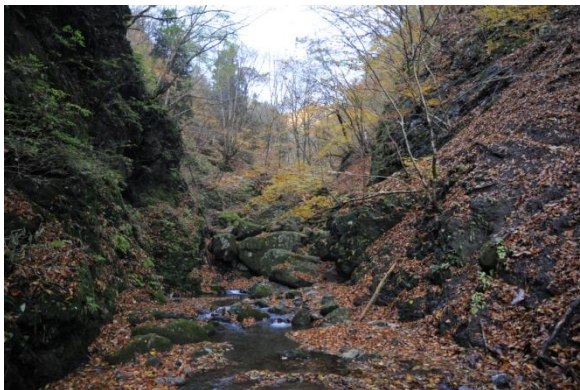
都内から日帰りで登ることができ、この時期でも積雪の心配のなく、しかも岩場鎖場の多い山を探していたら両神山に行き着いた。同学年のメンバー3人と、丸一日じっくりと山登りを楽しむことが出来て、充実した1日だった。

なお、駐車場の観点からは日向大谷からのアプローチが本来望ましいが、八丁峠～坂本間のルートがやや荒れ気味であることから、坂本から入山することにした。

④本文

早朝の坂本集落に到着。公的な駐車場は設置されていないので、都合が良さそうな場所に車を停めて、荷物を整えて出発。時間には余裕を持ったつもりではあったが、やはり予想していたより少し出発が遅れてしまった。

以前からある登山道であるこの道は、今は八



丁峠付近まで林道を通じて車で入れることもあり、訪れる人は少ないようだ。紅葉のピークはもう過ぎてしまったようではあるが、所々に見られる色づいた木々を眺めながら河原沢川の溪谷美を楽しみながら、しっぼりとした登山道を歩く。



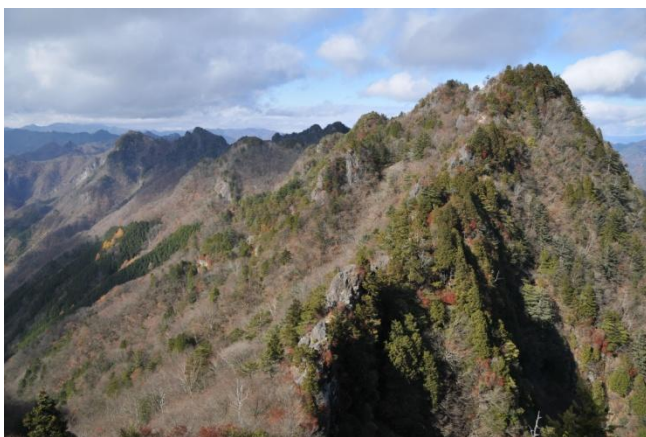
1 時間少々すると八丁峠への林道を横目に眺め、その後一気に勾配がきつくなる。

険しい登りに喘ぎながら 1 時間ほど。ようやく八丁峠に辿りついた。

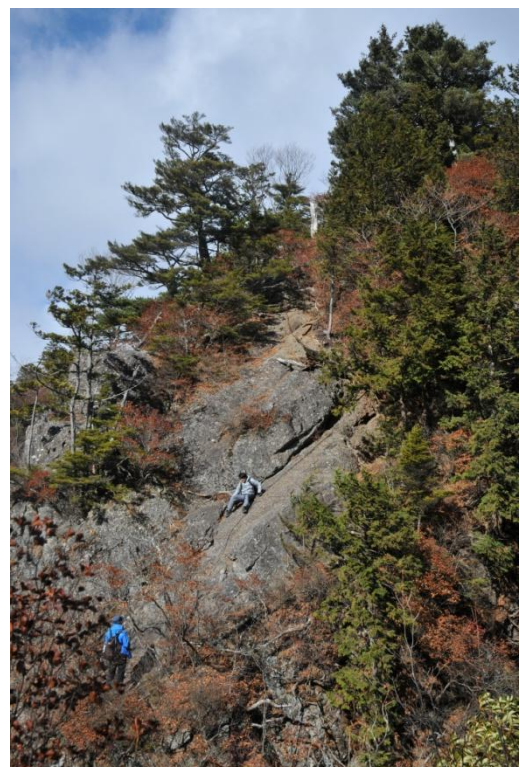
しばらくの休憩の後、鎖場の続く両神山山頂を目指す。

ここからは事前の下調べどおり、鎖場が続く。一説によれば全部で 32 本あるのだとか。

幾度も登り下りを繰り返しながら 1 時間ほどで西岳、さらに 1 時間少々で東岳へと至る。



高度感を強く感じるような場所はないものの、気を抜けない鎖場が何本も続くが、道中時折開ける両神山の山容や、西上州の山並みを眺めるのは爽快であった。



東岳を過ぎると一旦道は平坦になり、山頂直下で何本かの鎖場を越えてとうとう両神山の山頂へ。

八丁峠や日向大谷から来た人々で山頂は大いに賑わっていたので、少々離れた場所で昼食。ガスカートリッジでお湯を沸かしてカップヌードルを食べ、美味であった。



1時間ほど休み、体力を回復したところで下山開始。こちらが定番のルートともあって、多くの人に踏み歩かれた跡があった。

鎖場はないものの落ち葉に埋もれていて、少々足元に注意を払う必要を感じながら、1時間ほどで清滝小屋へ。

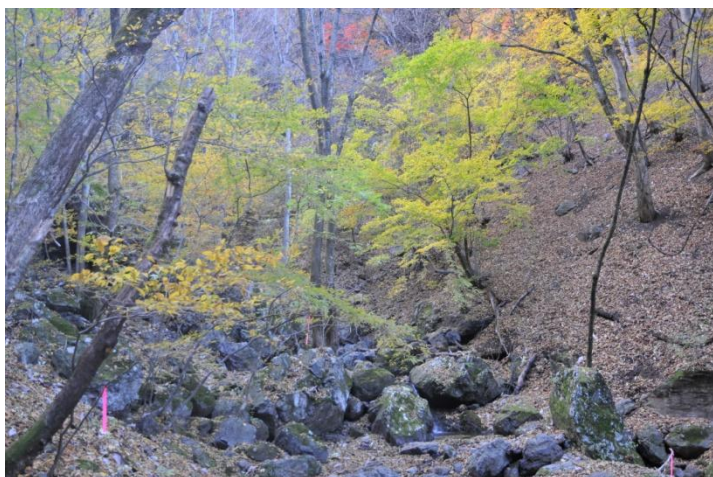
近年まで営業をしていた小屋ともあり、現在でも素泊まり用となっているようで外回り、内部いずれもよく手入れが行き届いていたように思う。

内部の宿泊者名簿を除いてみたところ、最近でも1週間に数名は利用があるようで、両神山登山の中継点として現在でもこの小屋が活躍していることを実感した。



少々休息をとった後に出発。薄川の溪谷に沿って作られた登山道の中を歩く。歩いている人こそ多いものの、落ち葉が積もっている箇所も多く、どことなく坂本からの登りを想起させられるような道のりであった。

時折目に留まる紅葉の景色を眺めながら残り僅かの道のりを歩く。



七滝沢との合流点からは少し登り返しがあり、1日歩き続けてきた身には少々きつかったが、日が沈むにはまだ少々余裕のある 16:00 には日向大谷に下山することが出来た。

30 分ほどバスを待ち、小鹿野町営バスにて小鹿野町内へと一旦下ったあと、西武バスに乗車して再び坂本の集落へ。バスが思った以上に大型で、停めておいた車が通過の邪魔になっていたかもしれないことを思うと少々心苦しかったが、充実した 1 日を過ごすことが出来た日曜日であった。

